

株式会社テクノマセマティカル

2026年3月期＜第26期＞
第2四半期（中間期）
決算説明会資料

■ Algorithm Specialist

TMC

2025年11月26日

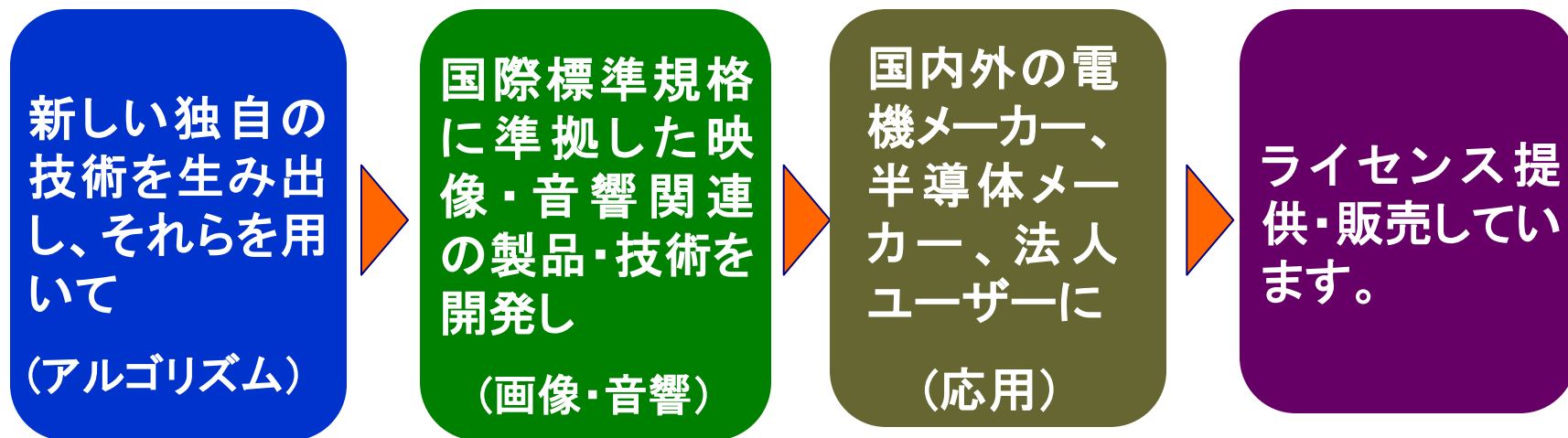
Agenda

1. 事業概要
2. 第2四半期(中間期)決算の概要
3. 主要な売上指標の推移
4. 通期業績見通し
5. 2026年3月期の課題と進捗
6. 当社技術のご紹介

本説明会および説明会資料に含まれる将来の見通しに関する部分は、現時点で入手可能な情報に基づいて、当社が判断したものであり、多分に不確定な要素を含んでおります。

実際の業績等は、さまざまな要因の変化等により、これらの見通しと異なることがありますことをあらかじめご了承ください。

1-1 当社の基幹業務について



①高圧縮率、②高画質、③低消費電力量、④低遅延
を実現するデータ圧縮・伸張技術を開発、提供し続けます。

1-2 DMNAとは

テクノマセマティカルは、独自の技術「DMNA」を用いた、高品位なソフトウェア・ハードウェア技術・製品で、豊かな社会の実現に貢献します。

DMNA(Digital Media New Algorithm)の特徴

<数学>

処理量削減

$$\begin{aligned} &\text{Log}(f(x) + g(x)) \\ &\sin f(x) \frac{d}{dx} g(x) \\ &\cos g(x) \\ &\tan h(x) \\ &z^{-1} \int_a^b f(x) dx \\ &\Sigma f(x) + g(x) \end{aligned}$$



簡単な数式に置換

+, -

<信号処理>

高速処理

消費エネルギー削減

50回の処理必要

1人分

10人分 10人分 10人分
10人分 10人分

50人
輸送

一回で全演算を実行する

因数分解、折り返し演算、階層化処理等の数学的手法を用いて、演算の負荷を劇的に削減する新アルゴリズム、それがDMNA (Digital Media New Algorithm) です。

DMNA は東京大学 客員教授の田中正文が中心となって開発、その応用分野は動画像に限らず、静止画、音声、音響等あらゆるデジタルメディアに広がっています。

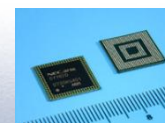
低消費電力 : CPU負荷をドラスティックに削減 !
(H264 Dec ARM 2572Mhz ⇒ 407Mhz)

高速化 : CPUの動作周波数を上げずに性能向上
(フレームレート: 60fps ⇒ 120fps)

高画質 : 新アルゴリズムによる2dbの画質向上
(空気を写す画質、)

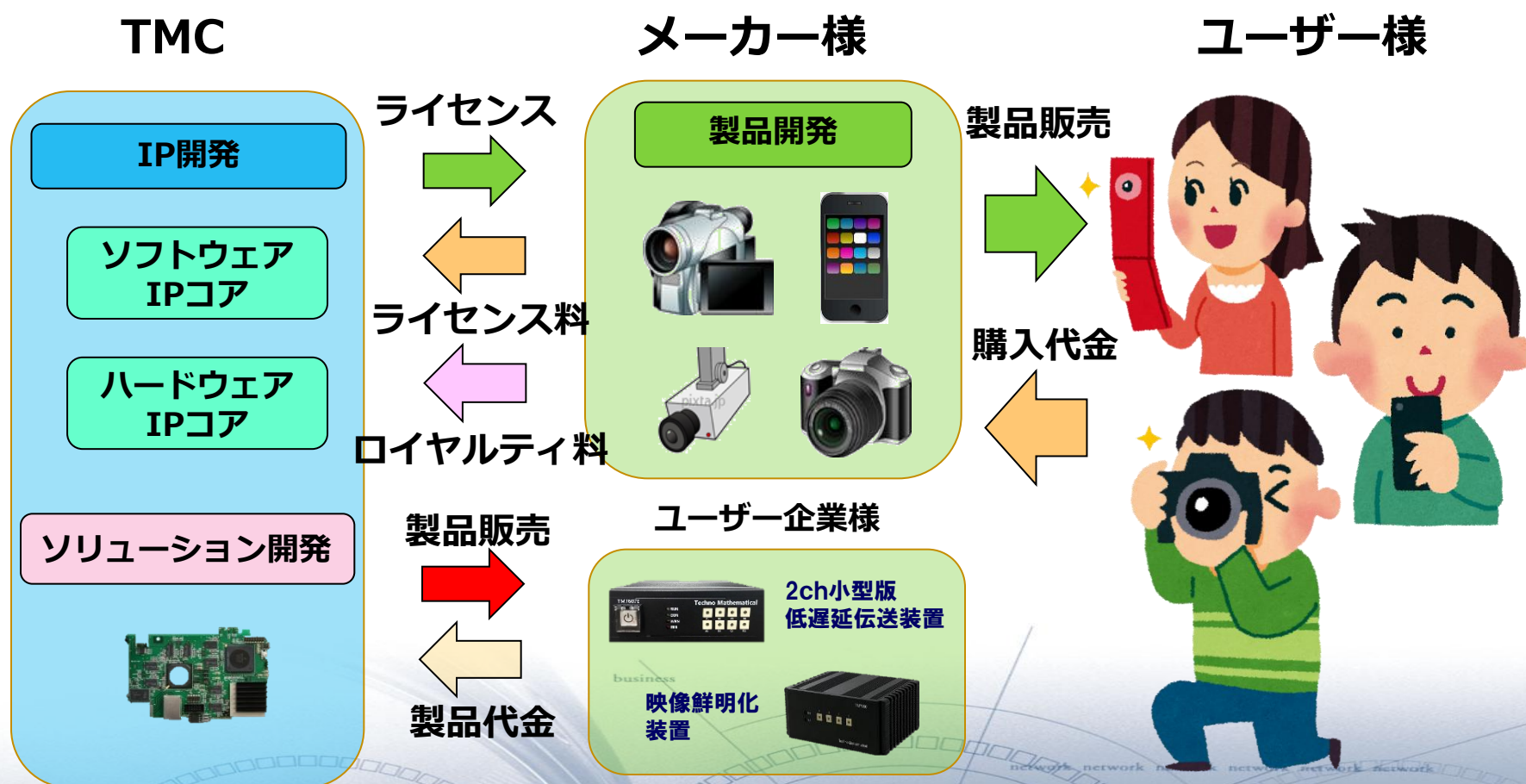
低遅延 : デジタルの最大弱点である遅延を大幅削減

TMC製品搭載機器例、



1-3 ビジネスモデル

当社は、独自のコンピュータアルゴリズム DMNAを用いて高品質・低消費電力・低遅延のIP・ソリューションを開発し、国内外のメーカー様等にライセンス提供または販売しています。



1-4 当社事業の特徴

1. 独自技術により差別化された製品

「DMNA」を核とした独自アルゴリズム



2. 利益逡増型の収益構造

ライセンス/ロイヤルティ・モデルを主体とした収益力

3. 全世界に展開可能

国際標準規格準拠、日本発の映像/音響製品

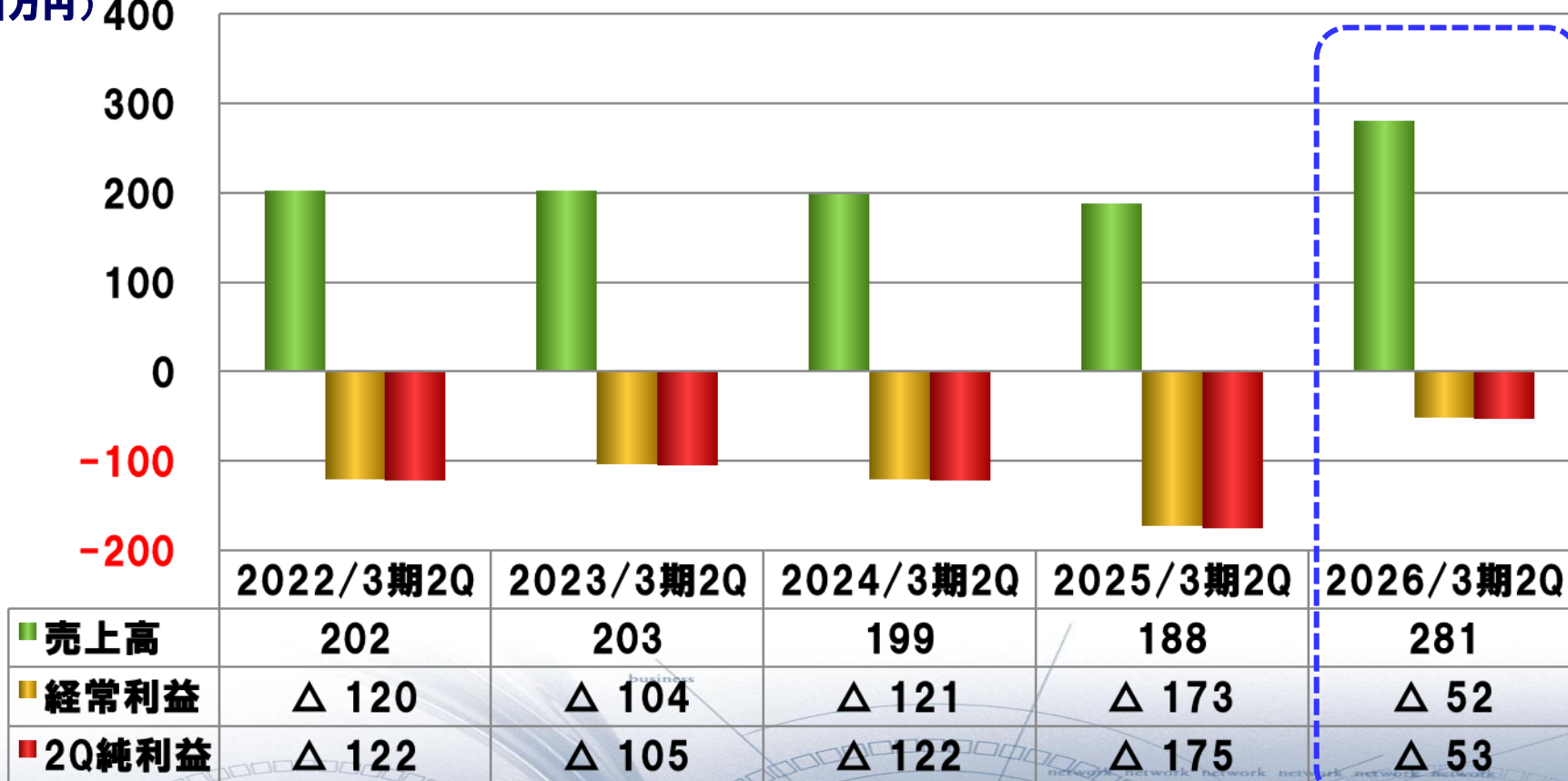
4. 事業領域拡大による収益力の向上

既存/新規の技術を応用したソリューション分野への展開

2-1 業績の推移

- ◆ 売上高 前年同期比49.3%増
ライセンス事業、ソリューション事業ともに大幅増加
- ◆ 損益面 売上高の伸長と経費圧縮で損益面も赤字幅大幅縮小

(百万円)



2-2 損益計算書

(2025年4月1日～2025年9月30日)

(単位：百万円)	2026/3期 第2四半期（中間期）	構成比	対前年同期 増減比	前年同期 (2025/3期2Q)
売上高	281	100.0%	49.3%	188
売上総利益	256	91.1%	51.7%	168
販売管理費	306	109.1%	△ 10.6%	343
営業利益	△50	△17.9%	－	△174
経常利益	△52	△18.5%	－	△173
中間純利益	△53	△19.0%	－	△175

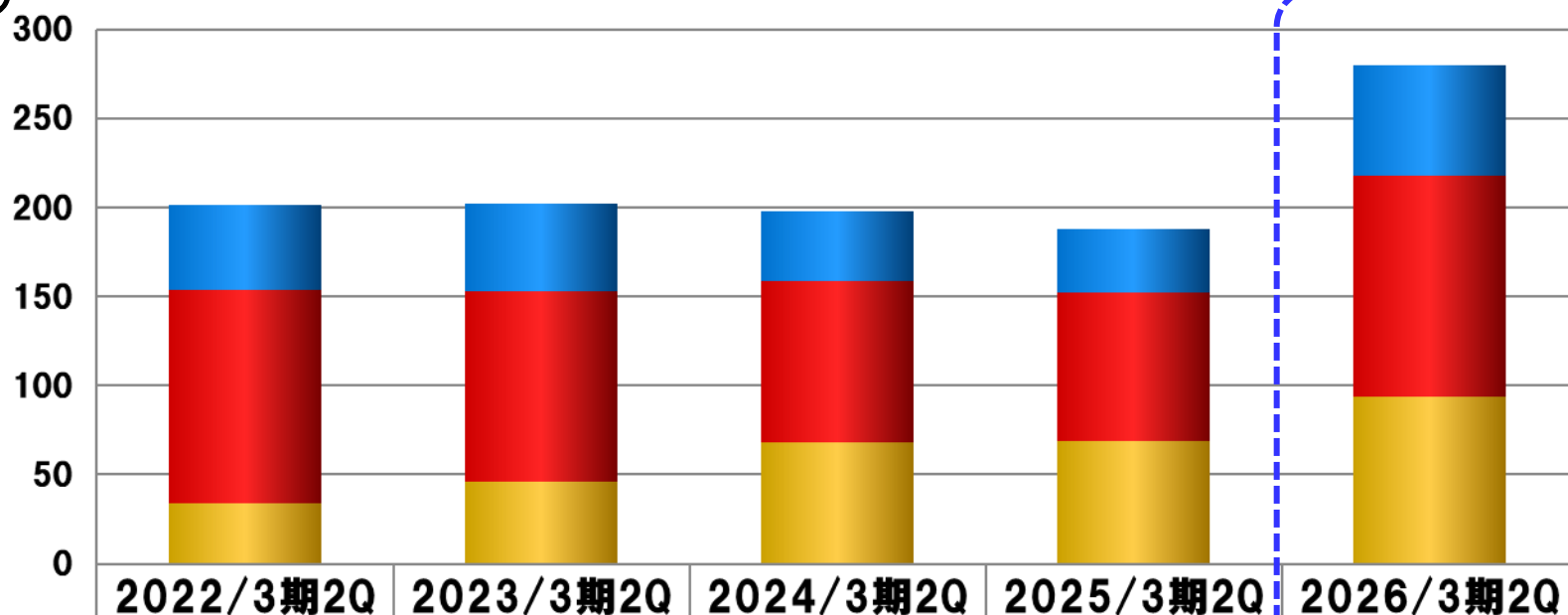
2-3 貸借対照表 (2025年9月30日)

(単位:百万円)	2025/9末	構成比	対前期末比 増減	2025/3末
流動資産	971	53.3%	△41	1,013
固定資産	848	46.6%	18	830
資産合計	1,819	100.0%	△23	1,843
流動負債	89	4.9%	8	81
固定負債	4	0.2%	4	—
純資産	1,726	94.8%	△36	1,762

3-1 売上の内訳(事業区分別)

- ◆ソフトウェアは前年同期比72%増・・・イニシャル(4件)、ロイヤルティともに伸長
- ◆ハードウェアは前年同期比49%増・・・2件のライセンス案件獲得、ロイヤルティも増加
- ◆ソリューションは前年同期比36%増・・・防衛装備品向け堅調、装置物販売も5件の新規案件獲得

(百万円)

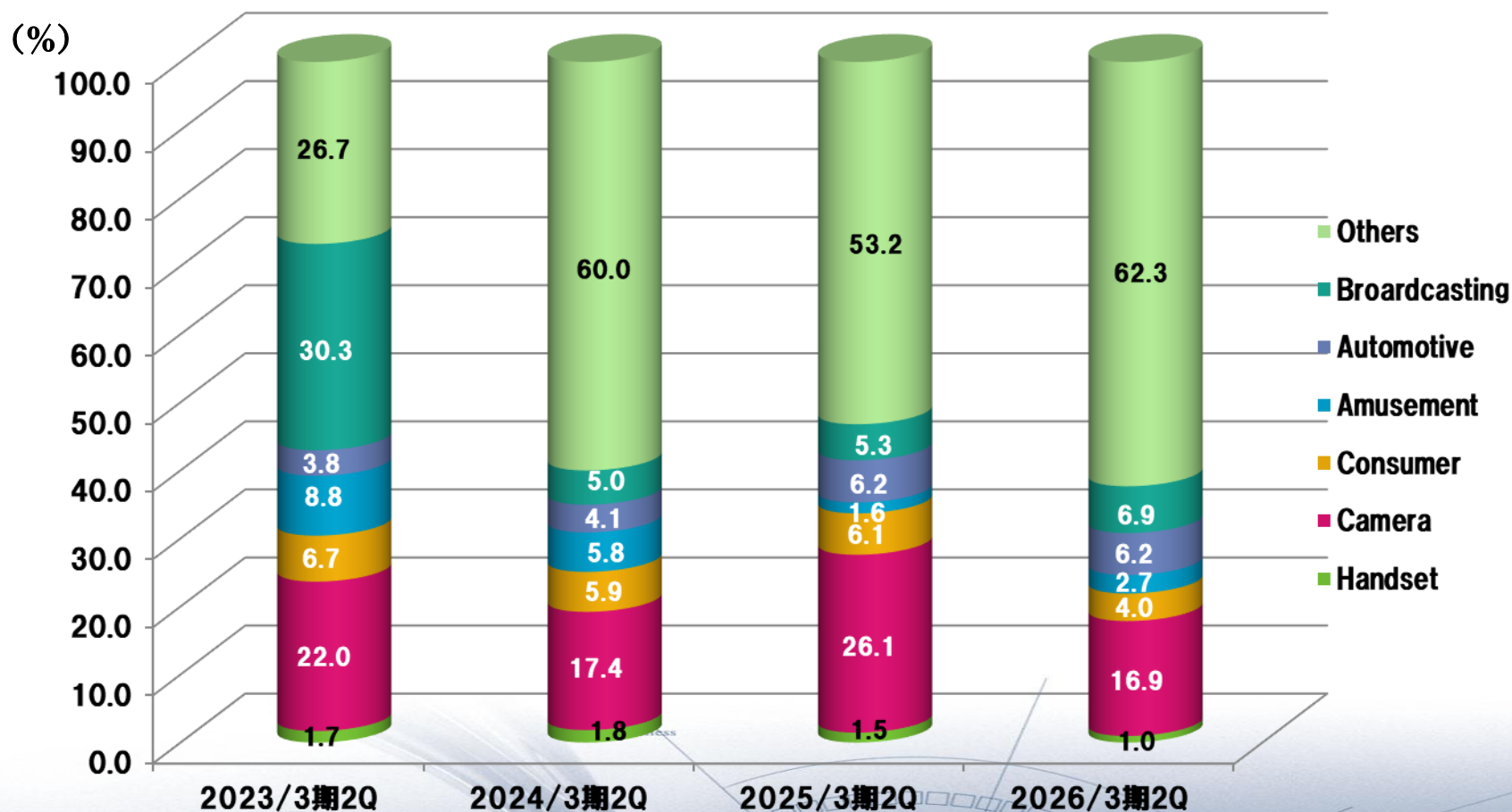


	2022/3期2Q	2023/3期2Q	2024/3期2Q	2025/3期2Q	2026/3期2Q
■ソフトウェア	47	49	39	36	62
■ハードウェア	120	107	91	83	124
■ソリューション	34	46	68	69	94

3-2 売上の内訳(対象市場別)

◆その他向けウエイト増加は2件のハードウェア案件獲得が要因。

◆カメラ向けウエイト減少はロイヤルティは堅調ながら開発案件減少が主因。



4-1 2026/3期通期業績見通し

(単位:百万円)

	予 想	増減	増減率	2025/3期実績
売 上 高	710	293	70.4%	416
経 常 利 益	4	286	—	△ 282
当 期 純 利 益	1	286	—	△ 285

◆ ソフトウェアライセンス＝車載機器、音声認識、携帯端末、配信システム向け中心に需要見込む

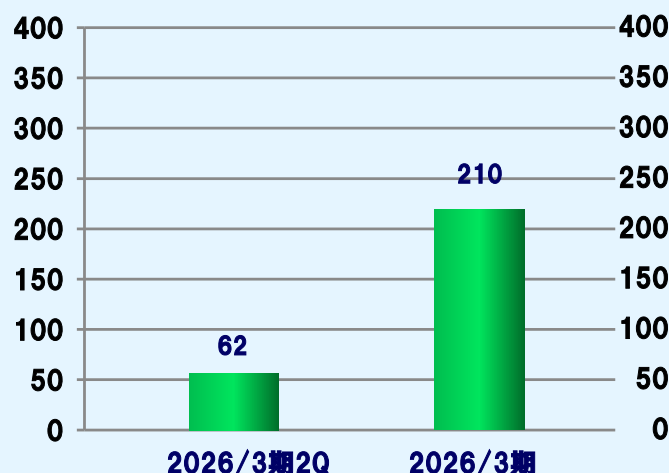
◆ ハードウェアライセンス＝デジカメ、宇宙関連、表示装置向け中心にH.265/H.264Multi、JPEG XS、固定長見込む

◆ ソリューション＝各種装置物拡販、車載関連やその他各種システム/カスタム案件も見込む

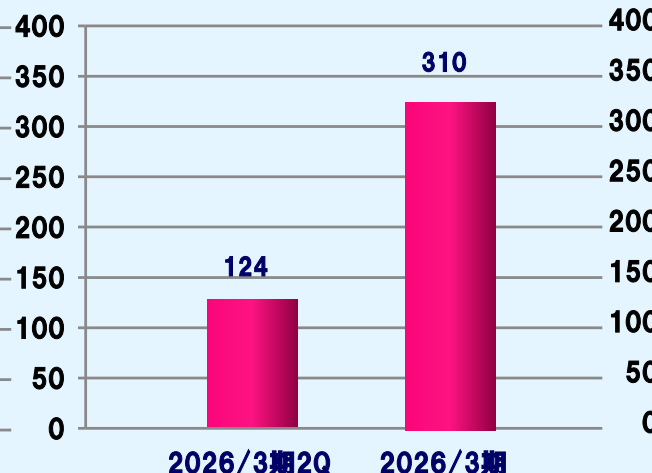
4-2 部門別見通し

<売上高>（単位：百万円、2026/3期2Qは実績値 2026/3期は計画値）

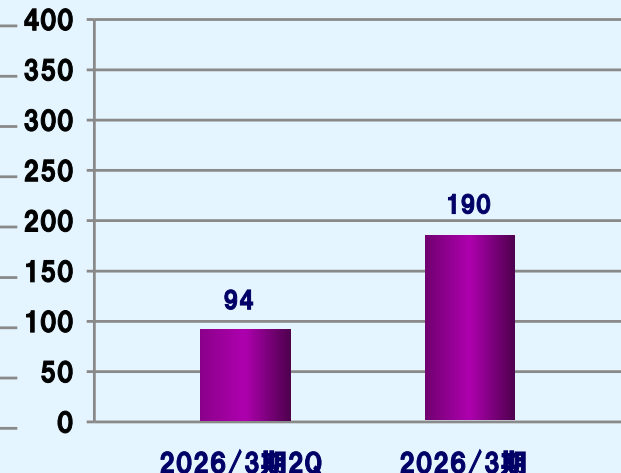
ソフトウェア事業



ハードウェア事業



ソリューション



- ・オーディオ、ボイス関連は**車載**、**音声認識**、**携帯端末**向け案件獲得見込む
- ・**各種配信システム**関連でH.264/H.265等ビデオ関連は底堅い需要見込む

- ・**デジカメ**、**宇宙関連**向け中心に**H.265/H.264Multi**案件獲得目指す
- ・**ディスプレイ装置**向け中心に固定長圧縮、デムラ圧縮などの獲得見込む
- ・**医療機器**向け**JPEG XS**も期待

- ・**各種装置物**の国内外での**拡販**見込む
- ・防災・防衛向け**低遅延システム**の**拡販**見込む
- ・**車載関連**や各種システム構築案件の獲得見込む
- ・**映像鮮明化技術**も期待

5-1 2026年3月期における課題と進捗

1. 東証上場維持基準適合への対応

(1) 2026年3月期が基準適合への最終期(改善期間)

- ① 現状の不適合項目は流通株式時価総額10億円
- ② 流通株式時価総額が10億円を超える株価は795円程度

(2) 基準適合への対応策

- ① 株価回復の基礎となる売上拡大、利益の安定計上策(具体策とその進捗は次ページ)
- ② 関係各機関ととり得る施策を検討
- ③ 上記施策実施の可否、時期は、業績動向、財務状況、ステークホルダーへの影響などを総合的に検討して判断

5-2 2026年3月期における課題と進捗

2. 売上拡大

(1) ライセンス事業: H.265 & H.264Multi / 固定長 / 認識率向上SW案件の獲得
⇒ H.264HW案件、固定長案件、H.264SW案件、MP3案件を各1件獲得

(2) ソリューション事業: 市場ニーズを先取りした新製品開発
⇒ クラウド対応版映像伝送装置の開発着手、超低遅延を実現するネットワーク / 通信技術の検討開始

3. 営業・開発の連携強化による海外ビジネス対応と案件数拡大
⇒ 訪台、訪中の定期化進め見込み案件複数発掘も実案件は未獲得

4. 顧客接触の量的・質的向上と価値の訴求強化
⇒ Webページ・コンテンツの充実と見込み客訪問回数増による案件発掘

5. 既存技術の高機能化・高性能化による差別化 / 優位性の維持・強化
⇒ JPEG XSのFPGA対応、映像鮮明化App機能向上 / ライブラリ化

6 当社技術のご紹介(一部)

車載用2chハンズフリーソフトウェア

<概要>

- ・車載用2chハンズフリーソフトウェアは、運転席または助手席の方向に指向性を形成するビームフォーミング機能の特徴とする車載用ソフトウェアです。
- ・エコーキャンセラやノイズサプレッサなどのハンズフリー通話に必要な機能群にビームフォーミングを追加したことにより、音声指示による各種操作のための音声認識率向上に有用です。

<特長>

- TMC独自の音声処理技術を使用しているためパテントフィーが発生せず、量産コストが抑えられます。
- エコーキャンセラは、シングルトーク時に約60dBのエコー消去性能があり、ダブルトーク時でもスイッチング感がないため、自然な会話が可能です。
- ノイズサプレッサによるSNR改善により、通話における音声明瞭度 (Speech Intelligibility) の向上が図れます。
- ビームフォーミングは、特定方向 (運転席または助手席) に指向性を形成し、それ以外の方向から到来する音 (ロードノイズなど) を低減します。
- これら3つの機能により、ドライブ中の音声指示による各種操作のためのクリアな入力音声を得られるため、音声認識の前処理として有用です。



アルゴリズムの分野で 世界のスタンダードになる！

ご清聴ありがとうございました。

本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性に関する責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いします。ここに示した意見は、本資料作成日現在の当社の意見を示すのみです。当社は、本資料中の情報を合理的な範囲で更新するようにしていますが、法令上の理由などにより、これをできない場合があります。

本資料および説明会内容についてのお問い合わせ先

株式会社テクノマセマティカル 経営企画部

TEL:03-3492-3633 E-mail:ir@tmath.co.jp